

「研究・教育・管理運営及び社会的活動等に係る業績一覧、今後の計画及び抱負」の記載上の注意

(注)用紙はA4版普通紙を使用し、必ずこの様式に従って各自で作成すること。

記入用紙の各欄は、スペースを変更したり該当しないところを削除する等、各自でレイアウトできるが、記載順序は入れ替えないこと。

※印刷する際にはできる限り片面印刷をし、紙をまとめる際には、できる限りホッチキス留めをせず、クリップ等を使用してください。ご協力をお願いします。

## 1. 研究業績 (公募締切日現在までの業績を記載すること。)

\* 研究発表会や国際会議などの予稿集、要旨集等に掲載されたものは研究業績には含めないこと。

また、同一の業績について2ヶ所以上記載しないように注意すること。(発表誌(媒体)が異なっても1カ所のみ記載とする)

以下「役割」の欄には、a、bのいずれかの記号を記入する。記号aは本人がファーストオーサー又は執筆責任者、bはその他であることを意味する。bと記入した場合には記号の後に貢献度を%で示すこと。 記入例：b (30%)

### ①学会誌・学術誌・紀要等所載の論文

\*レフリー(査読者)のある機関誌等に掲載された論文は、論文名の前に※を付すこと。

A：国際的学会誌・学術誌所載論文について記載すること。

・国際的学会誌・学術誌等が無い又は国内誌をしのぐ水準の学術誌等が存在しない分野においては、当該分野において高い評価を得ている学術誌等を含む。

・日本国外で刊行されたものであっても、当該国の大学等紀要類は、Cに分類する。

B：全国的学会誌・学術誌所載論文について記載すること。

C：大学(学部)紀要論文について記載すること。

D：地方的学会誌、大学附置施設・センター等紀要論文、講座等発行機関誌、大学以外の研究機関等紀要論文、当該分野で学術的価値が高く評価される公的機関誌所載論文について記載すること。

E：(市販)啓発誌所載論文、高等学校等紀要論文について記載すること。

・助教応募の場合は、修士論文はこの欄に記載してください。

\* 学会機関誌等であっても、正規の論文以外のものは、原則として⑥(「①②③④⑤」以外の執筆物)へ記載すること。

## ②学術書単著，学術書等所載の論文

- A：学術書単著（ISBN付・書き下ろしたもの）について記載すること。  
・一著述をすべて一人で新たに書き下ろしたものを対象とする。
- B：後記の③学術書等（ISBN付）（**A学術書**），④翻訳書（ISBN付）（**A学術書**），⑤影印本（写真複製）・復刻版（ISBN付）等に所載の新稿学術論文や解説・解題について記載すること。
- C：後記の③学術書等（ISBN付）（**B入門書等**），④翻訳書（ISBN付）（**B入門書等**）に所載の新稿学術論文や解説・解題について記載すること。
- \* B，Cの解説・解題については学術論文に準じた内容のものに限る。 それ以外は⑥へ掲載のこと。

## ③学術書等（ISBN付）の編集・監修

- A：学術書（ISBN付）
- ・刊行物に対し，全体的な責任を負う編者・監修者を対象とする。
- 以下のイ，ロ，ハの編集・監修（一書にまとめ上げたもの）
- イ．論文集（大系，叢書，〇〇講座等）
  - ロ．資料集・校注書・事典等
  - ハ．ISBNは付かないが，当該分野で学術的価値が高く評価される，公的機関による刊行物
- B：入門書等（ISBN付）及び小中高の教科書
- ・刊行物に対し，全体的な責任を負う編者・監修者を対象とする。公的機関による，ISBNの付かない刊行物も，これに含める。
- （参考：「大学教科書等の執筆等」は2．教育業績（2）A）

## ④翻訳書（ISBN付）の編集・監修，翻訳論文

- A：学術書について記載すること。  
・刊行物に対し，全体的な責任を負う編者・監修者を対象とする。
- B：入門書等について記載すること。  
・刊行物に対し，全体的な責任を負う編者・監修者を対象とする。
- C：翻訳論文について記載すること。  
・刊行物に対し，全体的な責任を負う翻訳者を対象とする。

## ⑤影印本（写真複製）・復刻版（ISBN付）の編集・監修

- ・刊行物に対し，全体的な責任を負う編者・監修者を対象とする。

## ⑥「①，②，③，④，⑤」以外の執筆物

- ・専門領域に関する学術的著述を対象とする。  
例）書評，辞書・事典の項目，新聞等のコラム，小中高の教科書教材等
- ・科研費の成果報告書も対象とするが，別途，論文・著書等として公刊された場合は，公刊された著作物を①②（学術論文）の対象として，当該報告書については対象外とする。

## ⑦実技・作品発表

\* 以下のA, B, Cそれぞれについて、『最高賞受賞・優勝』、『入賞・ファイナリスト』、『それ以外のもの』を分類して記載する。

A：国際的規模の大会，展覧会等の実績について記載すること。

国際的な実技・作品発表等が存在しない分野，あるいは国内における実技・作品発表が国際的な水準に勝る分野では，当該分野において高い評価を得ている競技会，演奏会，展覧会を含む。

B：全国的規模の大会，展覧会等の実績について記載すること。

C：地方的規模の大会，展覧会等の実績について記載すること。

## ⑧口頭・ポスター発表

\* **口頭発表者**あるいは**責任発表者**となったものを対象とする。

\* ①②（学術論文）に記載した内容を発表したものについても記載できる。

A：国際的規模の学会・研究会において発表した実績を記載すること。

B：全国的規模の学会・研究会において発表した実績を記載すること。

C：地方的規模の学会・研究会において発表した実績を記載すること。

## ⑨講演・シンポジスト等

\* A, B, Cは，**責任講演者**となったものを対象とする。

A：国際的規模の学会・研究会において講演した実績を記載すること。

B：全国的規模の学会・研究会において講演した実績を記載すること。

C：地方的規模の学会・研究会において講演した実績を記載すること。

D：シンポジウムなどの企画・司会等の実績を記載すること。

## ⑩学位（博士）

・博士の学位について記載すること。

## ⑪科学研究費等

A：文部科学省科学研究費等における研究代表者の実績を記載すること。

B：文部科学省科学研究費等における研究分担者，委任経理金における研究代表者，受託研究における研究代表者の実績を記載すること。

## ⑫学会賞

A：国際的規模の学会において受賞した学会賞を記載すること。

B：全国的規模の学会において受賞した学会賞を記載すること。

C：地方的規模の学会において受賞した学会賞を記載すること。

## 欄 外

・論文等発行予定のものを記載すること。

## 2. 教育業績

### (1). 教育指導に係る業績

#### ①教育・実践経験

##### A: 大学等での経験

- ・大学(大学院を含む), 大学共同利用機関, 短期大学, 高等専門学校(4学年～5学年担当)等における教育経験について, 専任と非常勤に区分し記載すること。

##### B: 大学等以外での経験

- ・実践経験について, 幼稚園, 小学校, 中学校, 高等学校, 特別支援学校(盲学校, 聾学校, 養護学校), 高等専門学校(1学年～3学年担当), 企業, 病院, 保育所その他の施設での経験を記載すること。

\*Bについては, 非常勤は対象外とする。

#### ② 教育実績

\*以下, 過去の実績の起算点は, 応募締め切り日の属する期とする。

(例: 過去3年間の実績を記載する場合で, 平成23年6月が応募〆切の場合は, 「平成20年後期～平成23年前期」の実績とする)

A: 担当授業の実績(過去3年間の実績)について記載すること。

- ・専任と非常勤に区分し, 組織及び授業形式については次の区分により, 記号で記載すること。また, 授業形式欄には担当した年度も記載すること。

組 織: 学部昼間(DF), 学部夜間(NF), 大学院昼間(DP), 大学院夜間(NP)  
授業形式: 講義(A), 演習・ゼミ(B), 実験・実習(C), その他(D)

- ・『学部: 昼間』の授業については, 「1 コマ～12 コマ」, 「13 コマ目以上, 又は受講者が 50 名以上のコマ」で分けて記載すること。
- ・常勤として担当した授業のコマ数合計と3年間の平均値を記載すること

B: 研究指導(副指導教官を含む)(過去3年間の実績)について記載すること。

- 卒業(学部)論文指導の実績について記載すること。
- 修士論文(M1からの指導を含む)指導の実績について記載すること。
- 博士論文指導の実績について記載すること。

C: 外国人留学生の指導(過去3年間の実績)(「B. 研究指導」との重複可)について記載すること。

- ・外国人留学生指導に関する事項について指導した学生の氏名も併せて記載すること。

D: 全学的学生指導(過去3年間の実績)について記載すること。

- ・履修支援, 進路・生活指導, 障害学生に対する生活・学習支援等が対象

E: 学生指導(過去3年間の実績)について記載すること。

- ・アカデミッククエスト, 学外での実地指導(基礎実習の引率, 基礎実習・インターンシップのコーディネーター, 工場見学, 社会見学, 調査等), 学内での臨床実習に関する指導・助言等が対象(教育実習の連絡指導は含まない。)

F: 教育活動による受賞(過去の実績)について記載すること。

## (2). 教育改善に係る業績

\*以下, A～Dについて, 過去5年間の実績を対象とする。

- ・大学における教育の改善及び資質向上に関する教授法の改善, カリキュラムの改善についての実行内容, ファカルティ・ディベロップメント (FD) に関する過去の実績 (講演会, シンポジウム, 授業公開, 新任者研修会, その他教育改善に関する活動等) について記載すること。ただし, 研究業績欄に記載したものは除く。

A : 大学教科書等の執筆等

「役割」の欄には, a, bのいずれかの記号を記入する。記号 a は本人がファーストオーサー又は執筆責任者, b はその他であることを意味する。b と記入した場合には記号の後に貢献度を%で示すこと。 記入例 : b (30%)

- ・注解のみの執筆の場合と分けて記載すること。

B : FD 講演会・FD シンポジウムのパネリスト, 授業公開の実績について記載すること。

C : FD 講演会・FD シンポジウム, 授業公開, 新任者研修会参加の実績について記載すること。

D : その他の教育改善に関する活動 (改善に関するプロジェクトへの参加等) の実績について記載すること。

- ・教科書, 翻訳書, 教育改善に関する論文・啓発書 (新聞等への執筆を含む), 教材 (メディア, プリント等で他者も使用可能なもの), 教育用ソフトウェア等が対象

### **3. 管理運営の実績**

\* 本学又は勤務校での管理運営に関わった活動の実績を記載すること。  
委員会, 専門委員会, 作業部会等を対象とする。

- ① 全学的な委員会, 専門委員会, 作業部会等の構成員としての実績を記載すること。
- ② その他, 特記すべきことを記載すること。

### **4. 社会的活動等**

\* 以下, ①～⑦について, 名称, 役割(具体的活動), 任期等を記載すること。

- ① 本学主催の教員免許状更新講習
- ② 本学主催の公開講座等に関する活動
- ③ 学外の公的機関における審議会・委員会等での活動  
・ 国レベルの活動と地方公共団体レベルの活動に分けて記載すること。
- ④ 国家試験委員等での活動 (科学研究費の審査員等)
- ⑤ 日本学術会議協力学術研究団体 (学会) 等での役員等の活動
- ⑥ 本学以外の公的機関 (JSPS, JST, JICA等) を通じた活動
  - ・ J S P S (日本学術振興会)
  - ・ J S T (科学技術振興機構)
  - ・ J A I C A (国際協力機構)
- ⑦ 公的機関の生涯学習講師, 出前授業等としての活動
- ⑧ 附属学校, 本学教育創造開発機構における社会的活動
- ⑨ NPO等自主的組織における活動
- ⑩ 高等学校等での模擬授業または学習支援に関する活動
- ⑪ その他社会的活動

### **5. 研究・教育・社会的活動等に関する今後の計画等**

・ 研究・教育・社会的活動等項目について, 合計1,000字程度記載すること。

### **6. 当該教科・科目の担当者として学校教員養成に関わる考えや抱負**

・ 1,600字以内で記載すること。